

地 域 経 済 動 向

令和3年8月31日



内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

目 次

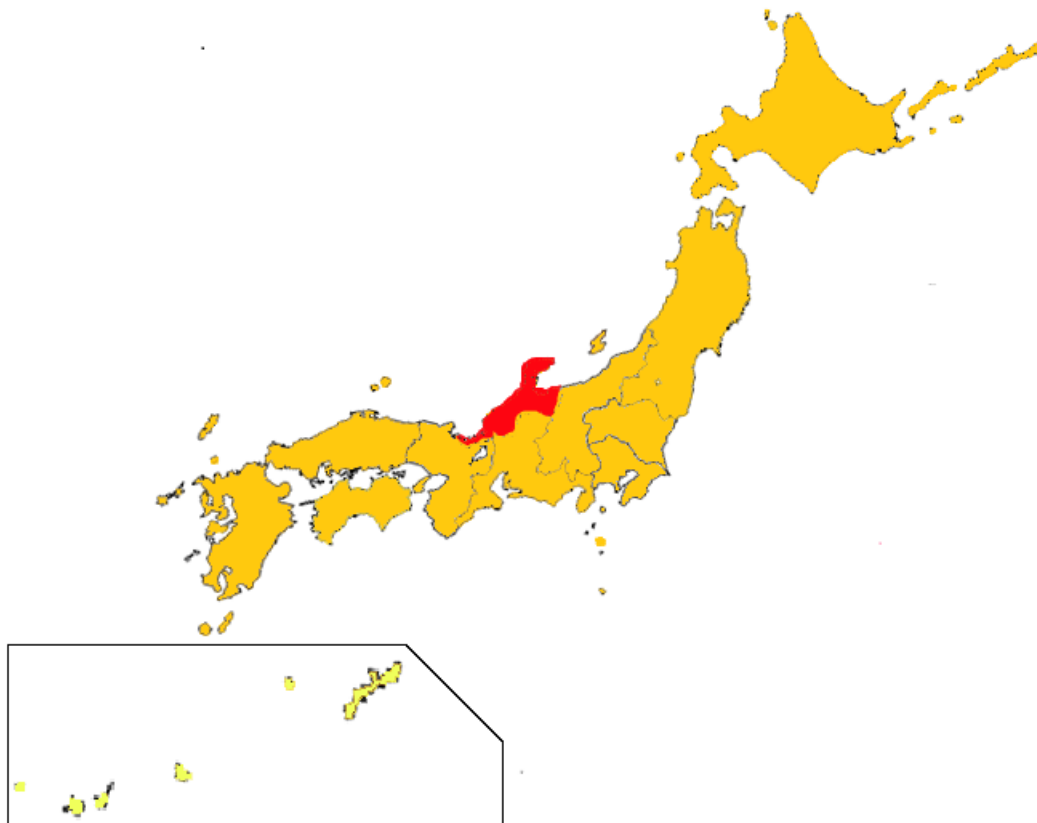
- 1 概況
- 2 分野別の動き
- 3 地域別の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 甲信越
 - (6) 東海
 - (7) 北陸
 - (8) 近畿
 - (9) 中国
 - (10) 四国
 - (11) 九州
 - (12) 沖縄
 - (13) 景気ウォッチャー調査（令和3年7月調査）
景気判断理由の概要
- 4 主要指標
- 5 参考資料

1 概況

(1) 各地域の景況判断

地域別の景況判断（景気の変化方向）は以下のとおり。

- ・北海道地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・東北地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・北関東地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・南関東地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・甲信越地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・東海地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・北陸地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなかで、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。
- ・近畿地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・中国地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・四国地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・九州地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。
- ・沖縄地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。



	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなかで、一部に弱さがみられるものの、持ち直している <ul style="list-style-type: none"> － 北陸
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している <ul style="list-style-type: none"> － 北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、東海、近畿、中国、四国、九州
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、弱い動きとなっている <ul style="list-style-type: none"> － 沖縄

(注) 上図は、景気の変化方向の記述（緩やかに回復している、持ち直している等）に基づき、分類・色分けしている。

本報告書では、原則として下記の地域区分を採用している。ただし、下記地域区分によらない場合は備考にその旨を明記している。

地域名	都道府県名	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越	新潟、山梨、長野	
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東北	北関東	南関東	甲信越	東海
景況判断	6月 (前回)	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している
	8月 (今回)	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している
		⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨
鉱工業生産 (沖縄は観光)	6月	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直しの動きに足踏みがみられる
	8月	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している
		→	→	→	→	→	↑
個人消費	6月	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている
	8月	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている
		→	→	→	→	→	→
雇用情勢	6月	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる
	8月	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している
		→	↑	↑	→	↑	↑

(注) ↑は上方に判断を変更、→は変更なし、↓は下方に判断を変更。

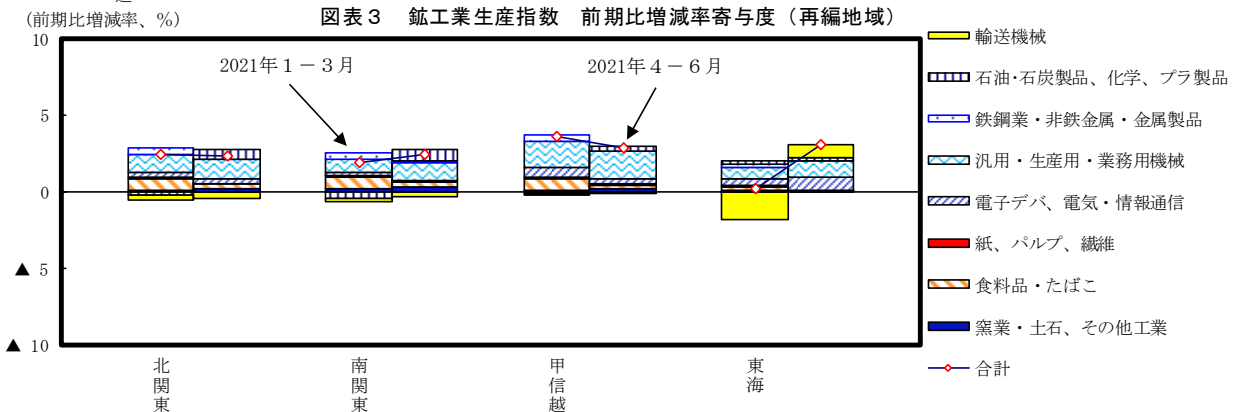
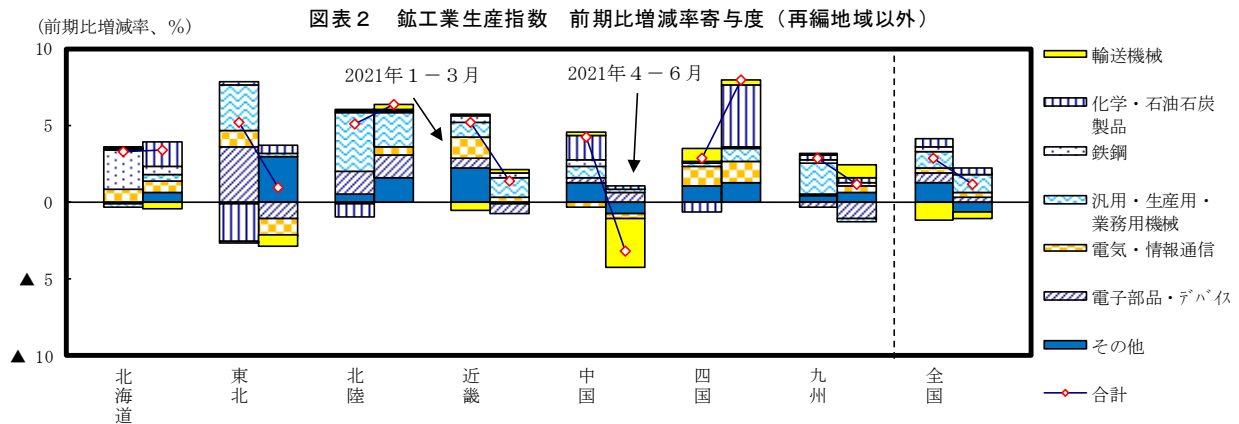
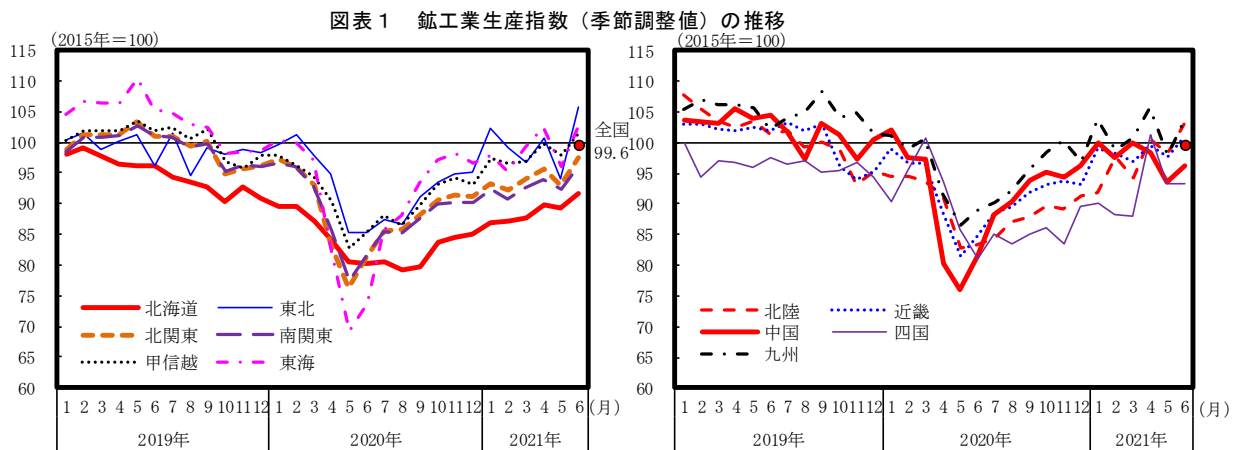
2 分野別の動き

＜生産＞北陸は増加している。北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、東海、近畿、四国、九州は持ち直している。中国は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

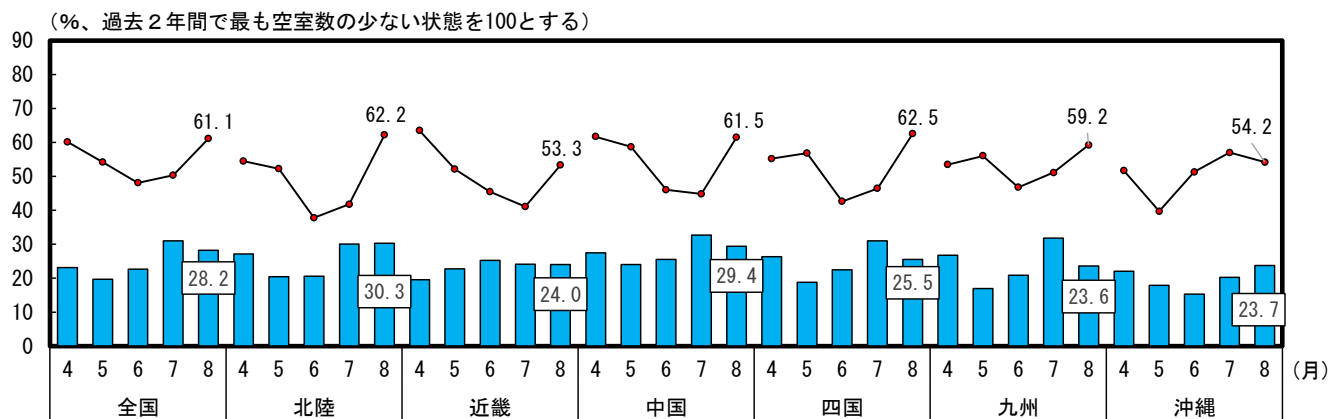
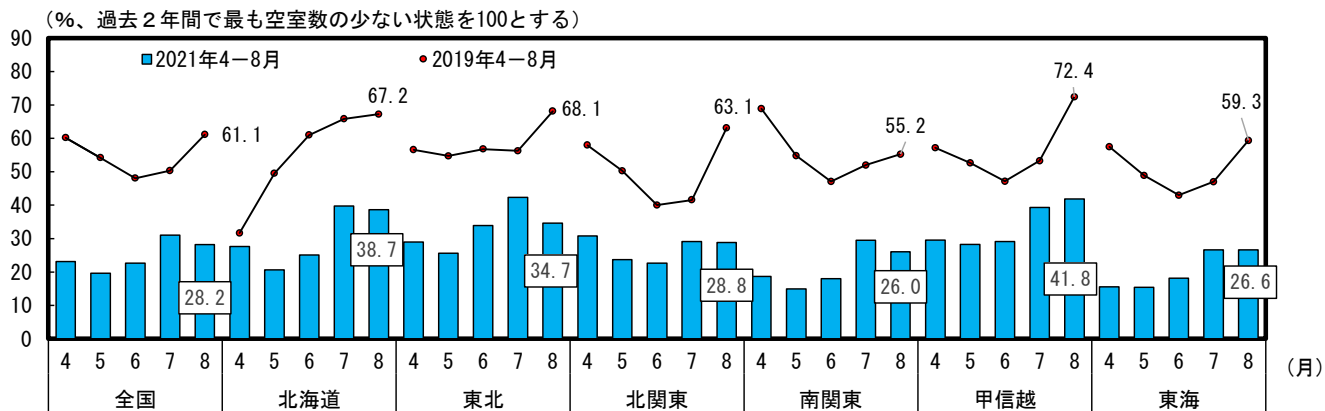
- 鉱工業生産指数（季節調整値）について、2021年4－6月期の動きをみると、中国（前期比▲3.2）はマイナスとなったものの、四国（同8.0）、北陸（同6.3）などほぼすべての地域でプラスとなった。

汎用・生産用・業務用機械（半導体製造装置）や電子部品・デバイス（電子デバイス）の増加が上昇に寄与した地域がみられた（図表1～3）。

- 宿泊施設稼働率は、前々年を大きく下回って推移している（図表4）。



図表4 宿泊施設稼働率

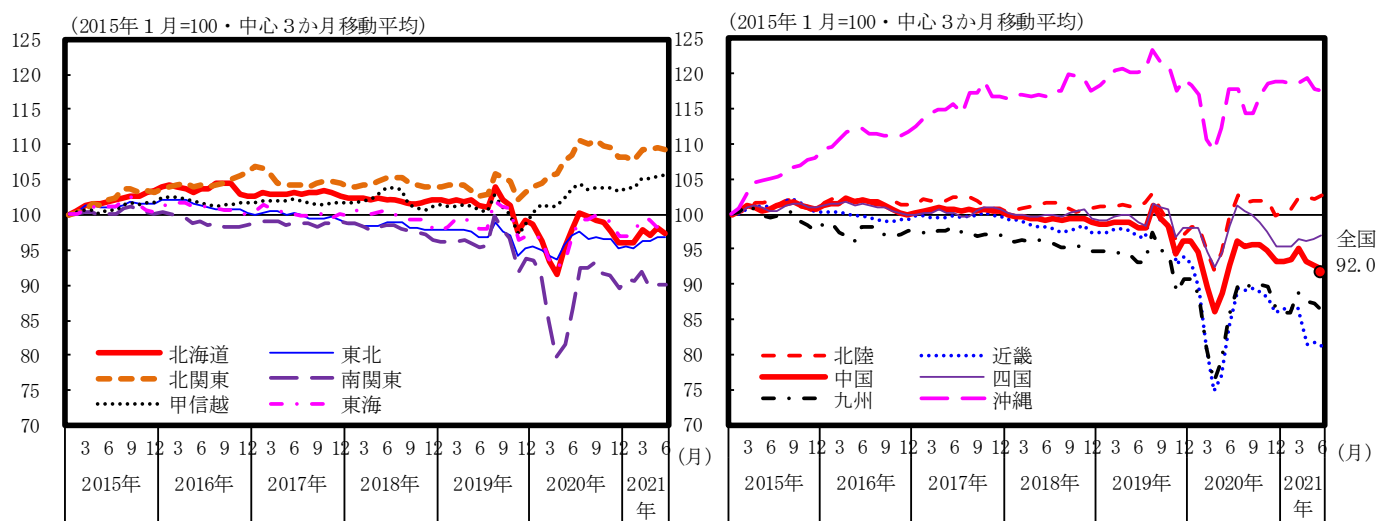


(備考) 図表1、2、3：経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。基準年は2015年。季節調整値。
 北関東、南関東、甲信越は関東経済産業局の「鉱工業生産の動向」、東海は中部経済産業局の「管内鉱工業の動向」、関東経済産業局により内閣府にて算出。
 図表1：全国の6月の値は確報値。その他地域の6月の値は速報値。
 図表2：全国、東北、北陸、近畿の「汎用・生産用・業務用機械」は生産用機械、汎用・業務用機械を足したもの。北海道の「汎用・生産用・業務用機械」は一般機械。全国、近畿、中国の「化学・石油石炭製品工業」は化学と石油・石炭製品を足したもの。全国、東北の「電気・情報通信工業」は電気機械と情報通信機械を足したもの。
 図表4：公益財団法人九州経済調査協会「DATASALAD」により作成。8月29日までのデータを使用。

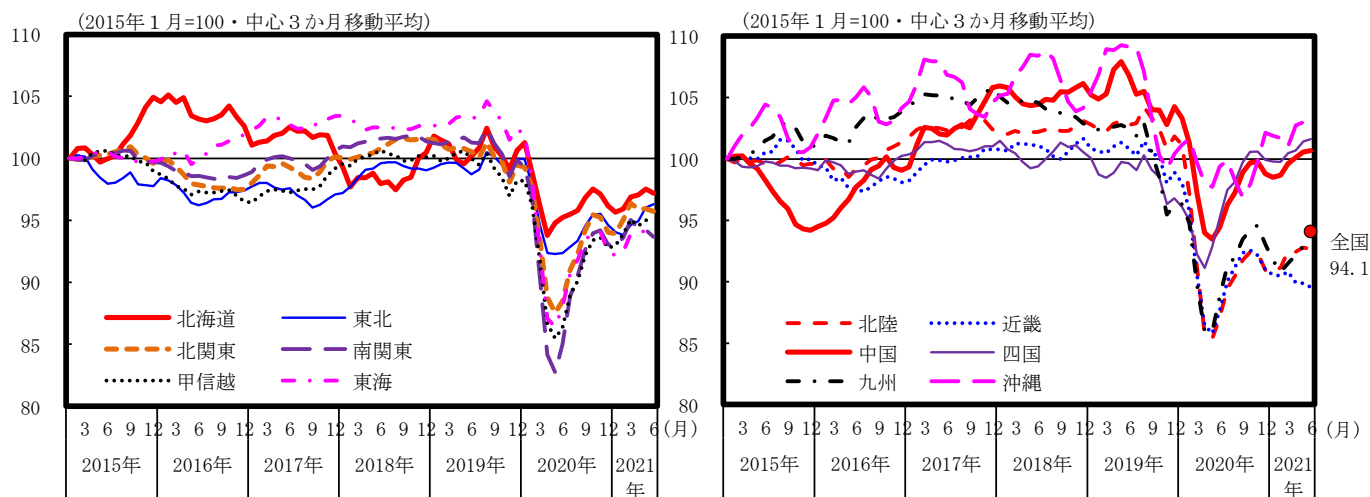
＜消費＞個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

- 消費について、2021年4－6月期の百貨店・スーパー販売額（実質・季節調整値）の動きをみると、北海道（前期比2.2）、東北（同1.8）等で全国（同▲0.6）を上回る一方、近畿（同▲5.4）、中国（同▲0.7）等は下回った（図表1）。
- 地域別消費総合指数（実質・季節調整値）は、4月は北関東等が低下したが、その他大半の地域は上昇した。5月はほぼ全ての地域で低下し、6月にはほぼ全ての地域で上昇した（図表2）。
- カード支出に基づく消費動向をみると、財支出は底堅く、サービス支出は弱い動きとなっている（図表3）。

図表1 百貨店・スーパー販売額(実質・季節調整値)の推移



図表2 地域別消費総合指数(実質・季節調整値)の推移



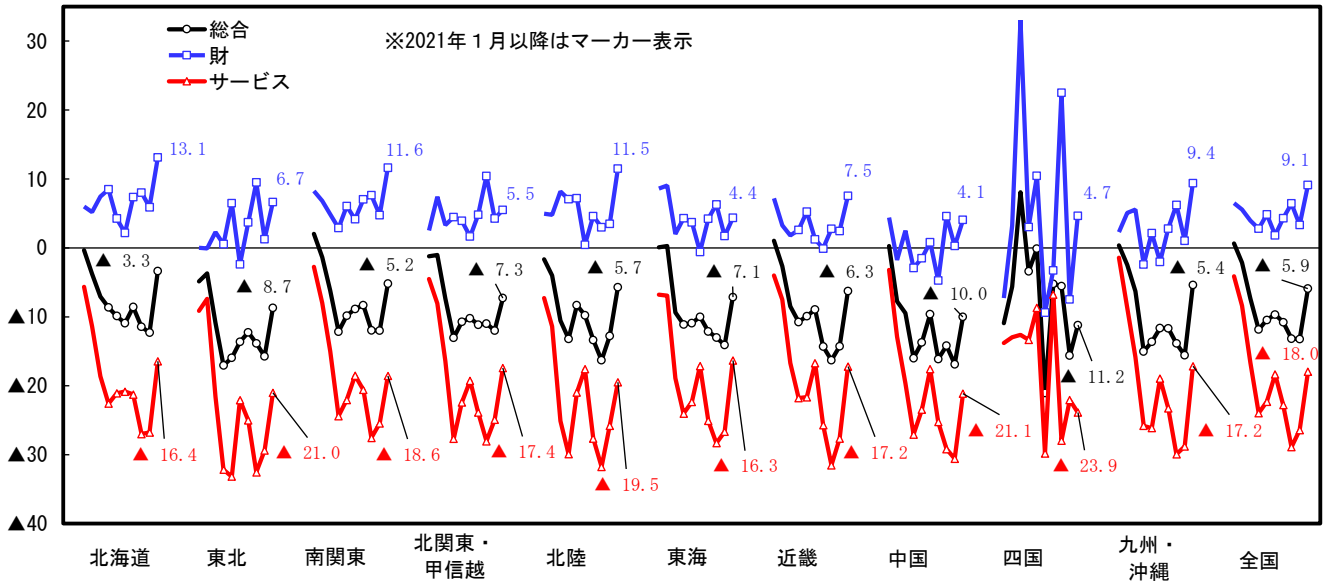
(備考) 図表1：経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」により作成し、内閣府にて季節調整。
 北関東、南関東、甲信越、北陸の消費者物価指数は、総務省「消費者物価指数」の各都道府県の県庁所在地別の消費者物価指数を、総務省「国勢調査」の二人以上世帯数を用いて加重平均し、内閣府にて作成。なお、消費者物価指数は、総合指数による。直近月は、2か月平均。
 図表2：内閣府「地域別支出総合指数（RDEI）」により作成。季節調整値。

図表3 カード支出に基づく消費動向（月次）

（2020年10月～2021年7月）

（前々年比、%）

【総合、財、サービス】

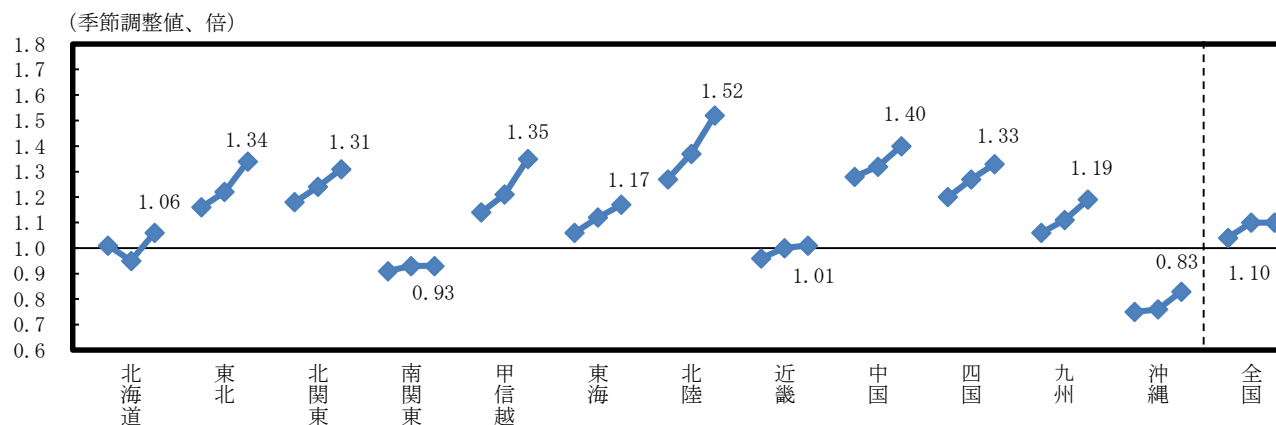


（備考）株式会社ナウキャスト、株式会社ジェーシービー「JCB消費NOW」により作成。渡辺努「クレジットカード支出金額の『一人当たり支出金額』と『支出者数』への分解」（2020年4月）の参考系列。

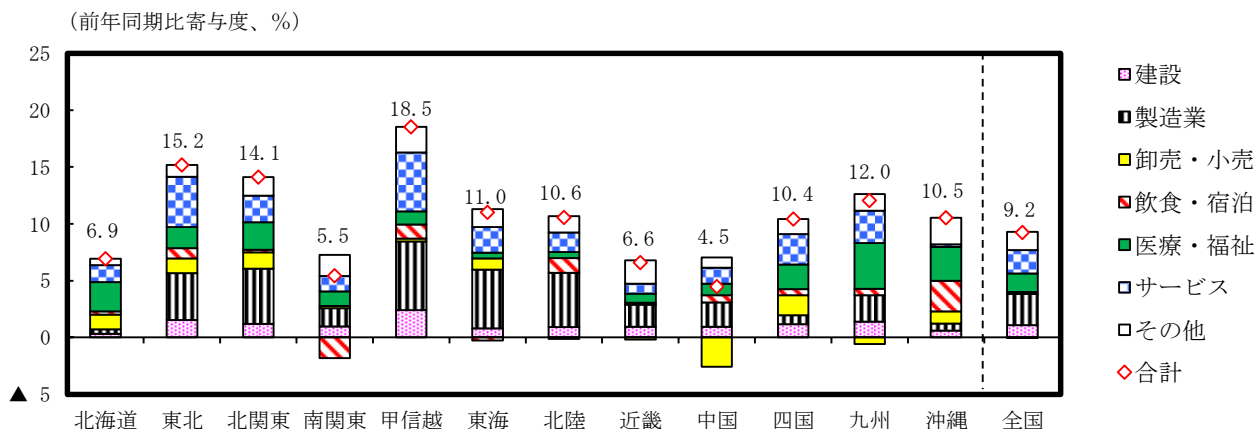
＜雇用＞雇用情勢は、東北、北関東、甲信越、東海、北陸、中国、四国、九州は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。北海道、南関東、近畿、沖縄は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

- 雇用情勢について、2021年4-6月期の有効求人倍率（就業地別・季節調整値）をみると、南関東で横ばい、その他の地域では上昇した（図表1）。
- 新規求人数について、2021年4-6月期の動きをみると、全ての地域で増加。地域別の業種別寄与度をみると、製造業、サービス業等、ほとんどの業種が増加（図表2）。
- 失業率をみると、北陸（前期差▲0.5）、北海道（同▲0.4）等で低下、東海、近畿等で横ばい、北関東（同0.4）、四国（同0.3）等で上昇（図表3）。

図表1 有効求人倍率（就業地別）（2020年10-12月期→2021年1-3月期→4-6月期）

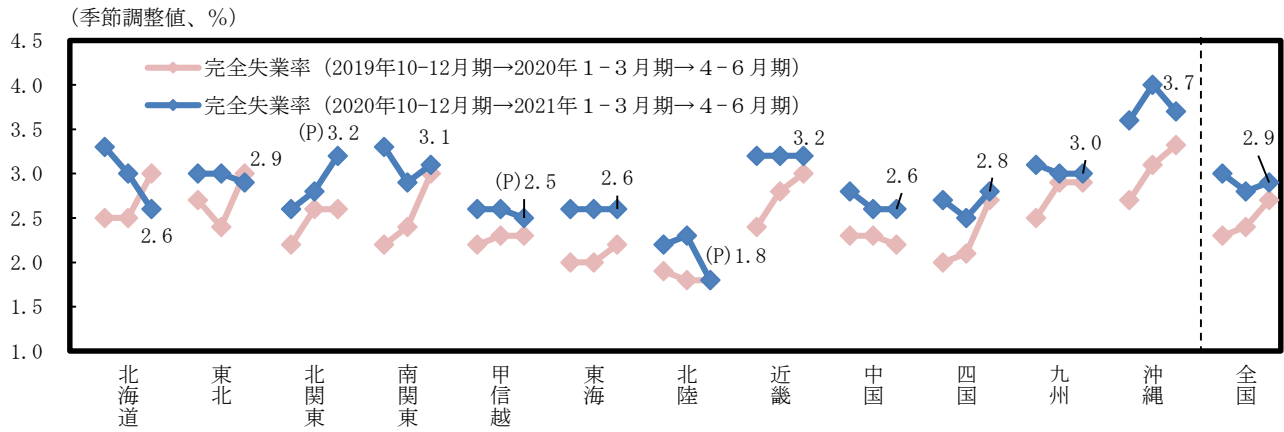


図表2 新規求人数の前年同期比産業別寄与度（2021年4-6月期）



(備考) 図表1：厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。
 図表2：厚生労働省提供データにより作成（受理地別）。

図表3 完全失業率の推移

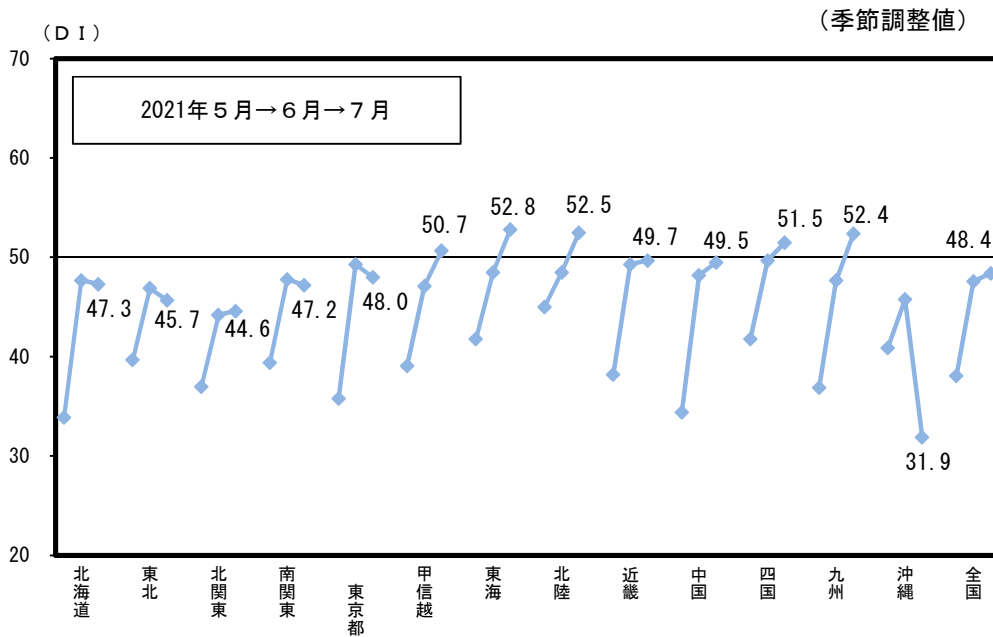


(備考) 総務省、沖縄県「労働力調査」により作成。季節調整値。

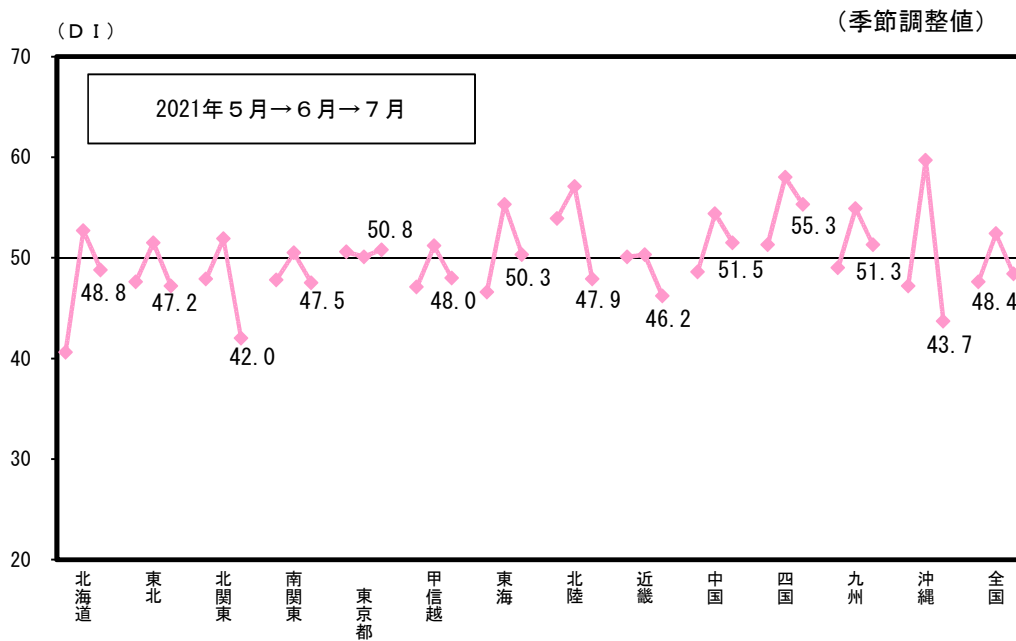
北関東、甲信越、北陸は、「労働力調査」の都道府県別モデル推計から算出した労働力人口、完全失業者の県別シェアを同調査公表値に乗じることで県別の人数を計算し、内閣府にて作成。甲信越、北陸、中国、九州は内閣府で季節調整。全国、沖縄の季節調整値は、内閣府にて月次値を四半期平均化。北関東、四国は四半期系列に季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

<足下の動き：景気ウォッチャー調査（令和3年7月調査）各地域の動向>

地域別DIの推移（現状）



地域別DIの推移（先行き）



(備考) 内閣府「景気ウォッチャー調査」（令和3年7月調査、調査期間：7月25日～31日）を基に作成。

○ 景気の現状判断D I（季節調整値）

前月と比較しての現状判断D I（各分野計）は、全国 12 地域中、8 地域で上昇、4 地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは九州（4.7 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは沖縄（13.9 ポイント低下）であった。

景気の現状判断D I（各分野計）（季節調整値）

(D I)	年	2021						
	月	2	3	4	5	6	7	(前月差)
全国		41.3	49.0	39.1	38.1	47.6	48.4	(0.8)
北海道		44.2	52.6	42.8	33.9	47.7	47.3	(-0.4)
東北		42.1	43.4	35.7	39.7	46.9	45.7	(-1.2)
関東		40.0	47.5	39.8	38.7	46.8	46.5	(-0.3)
北関東		37.4	50.0	41.1	37.0	44.2	44.6	(0.4)
南関東		41.0	46.6	39.2	39.4	47.8	47.2	(-0.6)
東京都		43.9	50.9	37.7	35.8	49.3	48.0	(-1.3)
甲信越		42.4	50.5	43.5	39.1	47.1	50.7	(3.6)
東海		42.0	48.6	41.0	41.8	48.5	52.8	(4.3)
北陸		43.2	53.6	48.9	45.0	48.5	52.5	(4.0)
近畿		42.4	49.8	33.3	38.2	49.3	49.7	(0.4)
中国		46.1	50.3	40.8	34.4	48.2	49.5	(1.3)
四国		45.0	54.8	38.2	41.8	49.7	51.5	(1.8)
九州		39.1	49.3	40.2	36.9	47.7	52.4	(4.7)
沖縄		36.1	56.6	49.2	40.9	45.8	31.9	(-13.9)

○ 景気の先行き判断D I（季節調整値）

前月と比較しての先行き判断D I（各分野計）は、全国 12 地域で低下した。最も低下幅が大きかったのは沖縄（16.0 ポイント低下）で、最も低下幅が小さかったのは四国（2.7 ポイント低下）であった。

景気の先行き判断D I（各分野計）（季節調整値）

(D I)	年	2021						
	月	2	3	4	5	6	7	(前月差)
全国		51.3	49.8	41.7	47.6	52.4	48.4	(-4.0)
北海道		51.9	50.0	42.6	40.6	52.7	48.8	(-3.9)
東北		49.0	43.8	44.4	47.6	51.5	47.2	(-4.3)
関東		48.7	48.7	41.9	47.8	50.8	46.1	(-4.7)
北関東		47.4	49.1	40.4	47.9	51.9	42.0	(-9.9)
南関東		49.2	48.6	42.5	47.8	50.5	47.5	(-3.0)
東京都		53.4	53.5	45.3	50.6	50.1	50.8	(0.7)
甲信越		50.0	48.7	42.7	47.1	51.2	48.0	(-3.2)
東海		50.2	50.1	42.4	46.6	55.3	50.3	(-5.0)
北陸		53.2	53.0	45.2	53.9	57.1	47.9	(-9.2)
近畿		51.6	46.9	39.2	50.1	50.3	46.2	(-4.1)
中国		54.9	54.3	41.9	48.6	54.4	51.5	(-2.9)
四国		52.3	55.2	41.7	51.3	58.0	55.3	(-2.7)
九州		51.9	54.4	42.9	49.0	54.9	51.3	(-3.6)
沖縄		62.2	53.8	47.7	47.2	59.7	43.7	(-16.0)